

## ひので映画大使最新版

## 第34回映画大使「ライフ・オブ・パイ トラと漂流した227日」

期 日 平成25年1月25日(金)  
 場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

## 【ストーリー紹介】

1976年、インドで動物園を経営するパイ(スラージ・シャルマ)一家は、カナダへ移住する事となり、洋上を航行していたが、途中で嵐に遭い船が沈没してしまう。必死で救命ボートにしがみつけた唯一の生き残りのパイ。しかしボートの中には体重200キロを超す、ベンガルトラがいた！

僅かな食料と絶望的な状況の中、少年とトラの227日間に亘る漂流生活が始まる…。世界的な文学賞ブッカ 賞に輝いた、ヤン・マーテルのベストセラー小説「パイの物語」を、アン・リー監督が映画化。主演はオーディションで選ばれた、無名のインド人少年スラージ・シャルマ、共演はフランスの名優ジェラルド・パルデュュー。パイがどのように危機的状況を乗り越えたのかに注目！



(C) 2012 Twentieth Century Fox

## 映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

## ▶ 映画大使の「第一声！」

- かつてないストーリーに驚愕！
- 3D上映で迫力満点！トラが飛び出てきた！！
- 素晴らしい映像美に、吸い込まれそうになった！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

## ▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

スケールが大きかったですね。海の嵐のシーンなど、どうやって撮影したんだろうって思うくらい凄かったです。トラと人間が近いところにいましたが、よく馴らされたトラで撮影したんでしょうか？特撮技術はすごいですね。

Bさん

星空やクラゲなどの光の表現が、映像に上手く取り入れられていて良かったです。ストーリー展開も締めくり方も良かったです。

Cさん

3D映画は初めてでしたが、立体感が凄かったです。ドキドキしました。少年の気力・体力・忍耐が彼を生き延びさせたんですね。そのあたりも良く描かれていました。

Dさん

私も3Dは初めてでした。気持ち悪くなるかと思っていたのですが、今日観たかぎりではそんな事はなく、迫力がありました。魚のシーンや泳いでいる所など、良かったですね。CGも年々進歩していきますね。漂流船でトラと一緒に生き延び、逆にトラと気持ちが通い合ったというのは、究極の状況だったからこそ、そうなったのかなと思いました。考えられないようなストーリー展開で、アカデミー賞にノミネートされたのも納得です。

Eさん

今までの3D映画は、何かが飛び出してきてそれを実感するのですが、今回は最初から、特に水の立体感がリアルで、本当の3Dってこういうのだからってのが味わる映像でした。内容的には、もう少し物語的(ディズニー風の)なのかなと思っていたのですが、違ってました。難しいのか、分かり易いのか、3D映像に押されてしまい、はっきりしなかったのですが、娘が観たら、どんなふう感じるのかな。

Fさん

映像がすごいという前評判で、実際私もトラが飛び出してきたところで、声をあげてしまいました。視覚的には素晴らしいかったです。海が宇宙で船が地球みたいな感じでした。人間が生きていく上では敵(と思えるトラ)と緊張感を持ちながら生きないといけないのかなと思いましたが、それがあったからこそ生き延びていったのかな、とも思えました。宗教についての描写もあり、考えさせられる映画でした。

### 🔍 作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・単にトラとの漂流のサバイバルストーリーではなく、あくまでそれは味付け程度で、パイという人間の内面を深く描いた作品でしたね。

・トラを、「リチャード・パーカー」と呼ぶところがユニークでした。

・宗教描写など含め、一番伝えたかったメッセージはなんだったのか？というところで、観た人の感じ方は異なると思います。色々な見方が出来る作品でしたね。

・トラと一対一になるという困難は、現代の世の中にも置き換える事ができますよね。人生というサバイバルの中に若者は一人でどう立ち向かうのか、生き残れるか？という風にも観てしまいました。

・この物語って実話なんですかね？(実話ではないと思います。小説の映画化ですが、一部実話を参考にしているようです。ワーナー・マイカル・シネマズ日の出 渡邊総支配人よりコメント)

・たった一人では決して生き残れなかったでしょう。相手がトラだとしても、一人よりはいいし、愛着が沸けば尚更でしょうね。

・船旅っていいですけど、あんな事があると怖いですよ。

・トビウオや、飛び出し回転するクジラなど、ほんと見事な描写でした。

・吹替え版でしたが、大人のパイの声を演じた本木雅弘さんの声が、落ち着いた感じで良かったですね。

### 🔍 まとめ

乗っていた船が沈没し、命からがら救命ボートに辿りついたのに、中にはトラがいた。1人と1匹の壮絶な漂流生活が始まる、という未だかつてないストーリーにまず引き込まれました。そして物語が進むにつれてトラとの共存関係が築かれていく、そのプロセスと、その後の展開に、観終わった後、「いい映画だった」と直感的に思った作品でした。その中で、少年の成長の軌跡と、「神」についても描かれていて、ハラハラドキドキと同時に、人間の心についても考えさせられました。

映画大使「おススメ」の映画です！ワーナー・マイカル・シネマズ日の出にて是非是非、ご覧下さい！

➡ [関連ページ: これまでのひので映画大使](#)

➡ [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係

電話042-597-0511(内線541)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶